

X 果樹類の病虫害防除

いちじく

—— 発病・加害時期
 === 発病・加害最盛期

作型・病虫害名		月																			
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12								
露	地					発芽				収穫											
疫株	枯	病																			
黒	か	病																			
さ	び	病																			
ア	ザ	ミ	ウ	マ	類																
コ	ナ	カ	イ	ガ	ラ	ム	シ	類													
イ	チ	ジ	ク	ヒ	ト	リ	モ	ド	キ												
カ	ミ	キ	リ	ム	シ	類															
ア	イ	ノ	キ	ク	イ	ム	シ														
シ	ョ	ウ	ジ	ョ	ウ	バ	エ	類													
ハ	ダ	ニ	類																		
イ	チ	ジ	ク	モ	ン	サ	ビ	ダ	ニ												
ネ	コ	ブ	セ	ン	チ	ユ	ウ														

疫病

留意事項

- 1 柵井ドーフィンで、発病しやすい。
- 2 Zボルドーは、薬害軽減のためクレフノン【200倍 ー／ー】を加用する。但し、収穫間際には果実に汚れを生じるので留意する。
- 3 降雨前の散布が効果的である。
- 4 QoI剤<< 1 1 >>は耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

- 1 チツソ質肥料の過多を避け、芽かきによって適正な結果枝数とし、通風、採光をよくする。
- 2 排水不良園では排水溝を設けて、排水をよくする。
- 3 敷わら、ポリマルチ等により雨滴のはね上がりを防ぐ。
- 4 被害葉や被害果は、ほ場外に持ち出し処分する。
- 5 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を散布する。
 - ・ [Zボルドー](#) <M 1 > 【1000倍 発病前～発病初期／ー】
 - ・ [ランマンフロアブル](#) < 2 1 > 【2000倍 前日／3回】
 - ・ [ライメイフロアブル](#) < 2 1 > 【3000倍 前日／3回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- 6 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
- ・ [レーバスフロアブル](#) <40> 【2000倍 前日/3回】
 - ・ [アミスター10フロアブル](#) <<11>> 【1000倍 前日/3回】

株枯病

留意事項

- 1 いちじく株枯病菌はアイノキクイムシによっても媒介されると考えられている。
- 2 オンリーワンフロアブル、ICボルドー66Dは、薬害のおそれがあるため、定植1年目までの幼木には使用を避ける。

防除方法

- 1 苗木や土壌などで病原菌を持ち込まない。
- 2 媒介昆虫アイノキクイムシを防除する。(アイノキクイムシの項参照)
- 3 いちじく株枯病抵抗性台木(励広台1号)の接ぎ木苗に植え換える。
- 4 発生が見込まれる時期に1か月に1回程度、下記の薬剤をかん注する。
 - ・ [オンリーワンフロアブル](#) <3> 【2000倍 5~10L/樹 生育期(収穫前日)/3回】
 - ・ [トリフミン水和剤](#) <3> 【500倍 1~10L/株 前日/4回】
 - ・ [トップジンM水和剤](#) <1> 【500倍 1~10L/株 前日/6回】
 - ・ [ICボルドー66D](#) <M1>
 - 【2~4倍 株元かん注 1~5L/樹 発病前~発病初期/-】

黒かび病

留意事項

- 1 長雨がが続くと発病が多くなり、収穫期間中の風雨後に多発する。
- 2 果実に飛来する昆虫が多いと発病が多くなる。
- 3 収穫開始前までの予防散布が効果的である。
- 4 ダコニール1000は果実に薬害が発生する恐れがあるので、果実肥大期の初期あるいは夏期高温時の散布は避ける。

防除方法

- 1 被害果は、ほ場外に持ち出し処分する。
- 2 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を散布する。
 - ・ [ダコニール1000](#) <M5> 【2000倍 前日/2回】
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [トップジンM水和剤](#) <1> 【1000~1500倍 7日/5回】

さび病

留意事項

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

1 QoI剤<<1 1>>は耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

- 1 冬期に園内の落葉を集めてほ場外に持ち出して地中に埋めるか、または処分する。
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [トリフミン水和剤](#) <3> 【2000倍 前日/3回】
 - ・ [アンビルフロアブル](#) <3> 【1000倍 前日/2回】
 - ・ [ラリー水和剤](#) <3> 【2000倍 前日/4回】
 - ・ [アミスター10フロアブル](#) <<1 1>> 【1000倍 前日/3回】

アザミウマ類

留意事項

- 1 果実の直径が2.5cmになった時の散布が効果的である。
- 2 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

- 1 乱反射型光拡散シートをマルチとして設置し、成虫の侵入を抑える。
- 2 ほ場の周囲を赤色防虫ネット（目合0.8mm以下）で囲い、成虫の侵入を抑える。
- 3 成虫発生期（5月下旬～6月中旬）に下記の薬剤を散布する。
 - ・ [ディアナWDG](#) <5> 【5000倍 前日/2回】
 - ・ [グレーシア乳剤](#) <30> 【2000倍 前日/2回】
 - ・ [アディオン乳剤](#) <3A> 【2000倍 前日/2回】
 - ・ [モスピラン顆粒水溶剤](#) 劇 <4A> 【2000倍 前日/3回】
 - ・ [コテツフロアブル](#) 劇 <13> 【ヒラズハナアザミウマ 2000倍 前日/2回】

コナカイガラムシ類

防除方法

- 1 3月中旬（発芽前）に下記の薬剤を散布する。
 - ・ [石灰硫黄合剤](#) <UN> 【落葉果樹 カイガラムシ類 7～10倍 発芽前/ー】
- 2 第1世代ふ化幼虫発生期（6月上～中旬）に下記のいずれかの薬剤を散布する。
 - ・ [モスピラン顆粒水溶剤](#) 劇 <4A> 【カイガラムシ類 2000倍 前日/3回】
 - ・ [トランスフォームフロアブル](#) <4C>
 - 【カイガラムシ類 1000～2000倍 7日/3回】
 - ・ [アプロードフロアブル](#) <16> 【カイガラムシ類幼虫 1000倍 14日/2回】

イチジクヒトリモドキ

防除方法

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- 1 5月下旬から10月にかけて、5世代程発生する。
- 2 幼虫は若齢～中齢幼虫の間は群生して加害するため、幼虫が分散する前に寄生葉を取り除いて処分する。
- 3 発生初期に下記の薬剤を散布する。
 - ・ [アディオン乳剤](#) <3 A> 【3000倍 前日／2回】
 - ・ [モスピラン顆粒水溶剤](#) 劇 <4 A> 【2000倍 前日／3回】
 - ・ [BT剤](#) <1 1 A> (X果樹類の病害虫防除 果樹類 ケムシ類 参照)

カミキリムシ類

留意事項

- 1 バイオリサ・カミキリは昆虫病原性糸状菌を製剤化した殺虫剤で、カミキリムシ成虫に殺虫効果を示す。殺虫効果は約30日間持続するが、降雨、殺菌剤、ナメクジ類等の影響で短くなる場合がある。
- 2 園芸用キンチョールEを使用する場合、逆流した薬液が収穫物にかからないように注意する。

防除方法

- 1 キボシカミキリとクワカミキリの食害が多い。キボシカミキリは主幹や主枝などから食入し、クワカミキリは1年生の枝から食入する。
- 2 凍霜害や日焼けなどで樹勢が衰えた樹が被害を受けやすい。
- 3 成虫は見つけ次第捕殺する。
- 4 食入孔に針金を差し込んで幼虫を刺殺する。
- 5 成虫発生初期に下記資材を地際に近い主幹の分枝部分等に架ける。
 - ・ [バイオリサ・カミキリ](#) <—> 【果樹類 1本／1樹 成虫発生初期／—】
- 6 成虫発生期に下記の薬剤を散布する。
 - ・ [ダントツ水溶剤](#) <4 A> 【2000倍 3日／3回】
 - ・ [モスピラン顆粒水溶剤](#) 劇 <4 A> 【キボシカミキリ 2000倍 前日／3回】
- 7 幼虫食入期に下記の薬剤を、食入部にノズルを差し込み、食入部から流出するまで噴射する。
 - ・ [園芸用キンチョールE](#) <3 A> 【クワカミキリ 前日／2回】

アイノキクイムシ

留意事項

- 1 ガットサイドSの薬液が、葉にかからないように注意する。

防除方法

- 1 樹勢を健全に維持する。
- 2 越冬成虫発生期（4月上旬～5月上旬）と夏世代成虫発生期（7月中旬～8月下旬）に

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

下記の薬剤を塗布する。

- ・ [ガットサイドS](#) <1 B>

【原液 株元から結果母枝まで塗布 4月～9月(収穫7日前)／3回】または
【1.5倍 主幹部に塗布 4月～9月(収穫7日前)／3回】

ショウジョウバエ類

留意事項

- 1 幼虫の寄生による果実の腐敗臭でハチ、コガネムシ類等の果実を加害する害虫が誘引されることがあるので注意する。

防除方法

- 1 過熟果や腐敗果は発生源となるので園外に持ち出して処分する。
- 2 成熟期以降、発生に応じて下記の薬剤を散布する。
 - ・ [ディアナWDG](#) <5> 【10000倍 前日／2回】
 - ・ [コテツフロアブル](#) 劇 <1 3> 【2000倍 前日／2回】
 - ・ [アーデント水和剤](#) <3 A> 【1000倍 前日／2回】

ハダニ類

留意事項

- 1 葉裏をねらい、丁寧に散布すると効果的である。
- 2 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

- 1 3月中旬（発芽前）に下記の薬剤を散布する。
 - ・ [石灰硫黄合剤](#) <UN> 【落葉果樹 7～40倍 発芽前／－】
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [ダニトロンフロアブル](#) <2 1 A> 【1000～2000倍 3日／1回】
 - ・ [ニッソラン水和剤](#) <1 0 A> 【2000～3000倍 前日／2回】
 - ・ [マイトコーネフロアブル](#) <2 0 D> 【1000倍 前日／1回】
 - ・ [サンクリスタル乳剤](#) <－> 【600倍 前日／－】
 - ・ [ダニコングフロアブル](#) <2 5 B> 【2000倍 前日／1回】

イチジクモンサビダニ

防除方法

- 1 発生期（6～7月）に下記の薬剤を散布する。
 - ・ [ダニトロンフロアブル](#) <2 1 A> 【2000倍 3日／1回】
 - ・ [サンマイト水和剤](#) 劇 <2 1 A> 【1000～1500倍 45日／1回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

-
- ・ [ピラニカ水和剤](#) 劇 < 2 1 A > 【2000倍 7日／1回】

ネコブセンチュウ

留意事項

- 1 樹冠下に粒剤を散布後、軽く土壌混和して土になじませる方が効果は高い。

防除方法

- 1 根にこぶが発生し、樹勢衰弱を認めたら、3月下旬に下記の薬剤を樹冠下処理する。

- ・ [ネマトリンエース粒剤](#) < 1 B > 【20kg／10a 60日／1回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合がありますので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合がありますので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。